

# 暖地酪農家のための

愛媛県畜産専門技術員

はじめに

西南暖地では限りない太陽光線と、温暖多雨のため青刈飼料作物が一年中にわたって収穫することができるし、土質の肥沃なところや、適当な施肥が行われる時は、いぢじるしく多くの収穫量を得ることができ

るので、飼料作物栽培を上手に行えば酪農経営を非常に有利に進めることができる。ところでこの地方の農業経営の基盤はや

ところが多い。旧来水田地帯の酪農では飼料栽培は裏作だけに頼らなければならなかつたので十分に行われなかつたが、最近水稻早期栽培や晚期栽培などの革新的な技術進展とともになつて、稻作跡の飼料作物の二毛作導入や、稻作と麦作の間へ飼料作物導入や、野菜の導入による商品化を兼ねた栽培によつて、水田酪農は農業經營の合理化に結びついて順調に発展することになつて

しかしながら一般には飼料の自給度も不十分

第一図のようである。

ケで穀物作物の栽培技術を高めたい

2 暖地に有利な飼料作物

第1図 暖地水田飼料作物導入型

第1図 五型中最も多いのは普通型であるが普及率の高いのが早期II型であり晚期型、早期I型は少い。二期作型は高知県以外ではごく少い。

甘藍はかりとえるものたからモリヨー」と牛が悲鳴をあげたといふが、やはり暖地といえどもサイロがなければ、計画的給与や経済的な給与はむずかしい。これら飼料作物が実際に早期稲跡に入れることができるが、その代表例を図示すると第二図のようである。

#### 4 経営に基づいた給与と栽培計画をたてる

毛作導入や、稲作と麦作の間で飼料作物導入や、野菜の導入による商品化を兼ねた栽培によつて、水田酪農は農業経営の合理化に結びついて順調に発展することになつて

の多毛作による経営の改善である。そこで、飼料作物栽培にあたつては普通稻作田、早期稻跡、晚期稻跡等を適当に組合わせることが大切なことである。いま暖地水田に

七  
た

第一図のようである。

野菜の商品と肥料兼用栽培

都市周辺や野菜地帯では農家経済上、野菜作りの収益が高いので促成栽培、抑制栽培

Cに属するもの	Dに属するもの	Dに属するもの
大青刈、エブンバク、甘藷、ガラシ、チヤ、飼料カブ、ブゲ、レッドグラス、ローベー	春刈デントコーン、春刈ヒマワリ、春バレイショ	春バレイショ
うになる。		

区別	Aに属するもの	Bに属するもの	Cに属す
銅料作物類	秋青刈、バジル、レインシヨウ、早生天根、蚕豆、甘藍、カブ	青刈ニンバク、青刈ナタネ、甘藍、ツッポリ、イバタリアンラン、ラディッシュ、クローバー、アルサイク、クロロバーベン、レンゲ	青刈エンドウ、トマト、バジル、ペッソ、飼料カブ、
銅料作物類	秋青刈、バジル、レインシヨウ、早生天根、蚕豆、甘藍、カブ	青刈ニンバク、青刈ナタネ、甘藍、ツッポリ、イバタリアンラン、ラディッシュ、クローバー、アルサイク、クロロバーベン、レンゲ	青刈エンドウ、トマト、バジル、ペッソ、飼料カブ、
銅料作物類	秋青刈、バジル、レインシヨウ、早生天根、蚕豆、甘藍、カブ	青刈ニンバク、青刈ナタネ、甘藍、ツッポリ、イバタリアンラン、ラディッシュ、クローバー、アルサイク、クロロバーベン、レンゲ	青刈エンドウ、トマト、バジル、ペッソ、飼料カブ、

ハンソン氏によれば、成乳牛一頭一日当たり必要栄養量は、体重五〇〇キの場合、健康維持のために蛋白質で二五〇g澱粉餌で二・四キ<sup>ロ</sup>である。

また牛乳を生産するためには、七五%（四升）の乳には八・五キロの乾物量四・一キロの蛋白質を必要とする。この必要栄養分をどのように飼料として与えればちよどよい

第2図 早期稻跡の飼料作物栽培例

月別	6.7.8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
早 期 稻	青刈 デント	11.25				ベッヂ				
	カブ 大根		12.25							
	青刈 デント		11.25			青刈 ナタネ				
						ム	キ			
	青刈 奈豆		11.25			ム	キ			
	カブラン		11.25			ム	キ			
	秋バレイシヨ		11.25			エンバグ	ベッヂ			
	カブラン						春バレイシヨ			
	白菜						青刈 ナタネ			
	カブ					大根				
	レンゲ						春バレイシヨ			
	9.25						イタリアン			

か、また安価に与えられるかが大切なことである。

この根本的な考え方として基礎飼料は粗飼料（草飼料）でまかない、補充飼料として濃厚飼料（ヌカ類）を使う。したがつてほとんど大部分を草で与えることになる。

育成時代から草を十分喰わしておけば、良質粗飼料だけで大体二〇石と二五石は搾乳することができます。前記必要栄養量を充たすには、マメ科の草二五キロ（六貫）イネ科四〇キロ（一〇貫）計約六五キロ（一六貫）を必要とする。

今これを生産費の立場からみると、草飼料の場合と濃厚飼料給与の場合との比較ができる。酪農經營上C例の場合が望ましい。そこで早期晩期普通作の各三分の一ずつ計三〇キロで約二、五〇〇キロの青刈類を収穫し得て

## 6 混播の方法

混播割合が適当で施肥量が適当な場合に

青刈りデントの播種は畦作りをして点播または条播を行つたのであるが、最近の実際的結果からバラ撒き、バラ栽培の方が多くある。耕耘器で表土を攪拌し同時に堆肥その他の基肥を施し種子を全面散布する。青刈類ではデントコーンに限らず管理方法を行うまでに刈取るので、このような傾向があり今後の研究を要する。

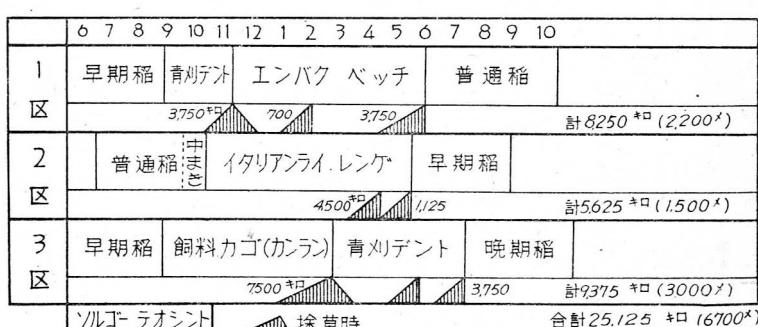
前表のデント跡作エンバクベッヂの混播はイネ科のものとマメ科のものを別々に作つた場合より混播の場合が収量が多くなる。普通稻作や晚期作の場合では、稻の刈取後に播種したのではおそらく収量が上らない場合に稻の立毛中にバラ撒きする。この割合はレンゲ二キ、イタリアンライ一・五キロまたはレンゲ一・五キロ、レッドクロバー一・五キロ、イタリアン一・五キロ程度幾分湿地ではアルサイククロバーが良い。

刈りデントコーンは暖地での短期間最大収の作物で九月上旬播種、十一月上旬の約六七日で四、〇〇〇キロの収量が得られる。この期間は大螟虫の被害も全然なく、当初の成育は良い。初霜の降るまでに刈取りサイレージに詰める。

この場合、一区の早期稻跡の青

刈りデントコーンは暖地での短期間最大収の作物で九月上旬播種、十一月上旬の約六七日で四、〇〇〇キロの収量が得られる。この期間は大螟虫の被害も全然なく、当初の成育は良い。特長としてレンゲだけを行い給与することができる。これらの栽培設計については第三図のとおりである。

第3図 暖地水田飼農飼料栽培設計図



## 7 稲間の中播き法

普通稻作や晚期作の場合では、稻の刈取後に播種したのではなくて収量が上らない場合に稻の立毛中にバラ撒きする。この方法では稻を刈取つて除くまでは、日光や風通しが悪く、糸のように軟弱な成長をするので、長い期間はかえつて良くない。しかし稻の刈取後は早く健全な状態に戻る。エンバク、ベッヂの場合でも、レンゲとイタリアンの場合でも、稻の刈取後施肥量〇.5kg程度を行うと順調な発育をするようになる。中播期は九月下旬から十月上旬頃

してエンバクのできの悪い場合に、一〇kg當り一〇キロ一五キロを施すようとする。冬期二度刈りした場合に寒いところでは枯死株ができる。このような地方ではイタリアンライグラスを混播しておくとよい。

二区の普通稻の立毛中にレンゲとイタリヤンライの混播をする。これにレッドクロバー、アルサイククロバーなどの三種混播を行うのが良い。特長としてレンゲだけでは一般に収量が少いが、イタリアンライやレッドクロバーを入れるとずつと収量が多くなる。レンゲの刈取時期に第一回刈りを行つて田植前までイタリアンライやクロバーの再生力をねらつて最後の刈取りを行うので約六、〇〇〇キロの収量が得られる。混播の割合はレンゲ二キ、イタリアンライ一・五キロまたはレンゲ一・五キロ、レッドクロバー一・五キロ、イタリアン一・五キロ程度幾分湿地ではアルサイククロバーが良い。